

## —朝の礼拝から 1—

## 神様の慰め

マタイによる福音書 6 章 25～31 節

2025 年が始まってほぼ半年が経ちました。4 月に始まった新しい生活の緊張やストレスが、そろそろ疲れとして表れる頃かもしれません。最近ニュースで「6 月病」という言葉を耳にしました。6 月病とは、5 月病のような症状が 6 月に出ることをいうそうです。皆様の中にもなんとなくやる気が出ない、体がだるい、集中できないといった不調を感じている方もいらっしゃるかもしれません。このようなとき、心には様々な「思い煩い」が重くのしかかってきます。

今日の聖書の箇所では、イエス様は「思い煩うな」という言葉を私たちにくださいます。イエス様は、私たちが何を食べるか、何を着るか、将来どうなるかといったことで、あれこれ心配しすぎることの無益さを教えてくださいます。そして、私たちを鳥や花よりもはるかに価値ある存在として大切に思ってください。もし神様が、小さな鳥や野の花さえも顧みてくださるのなら、私たち人間を顧みないはずがありません。

私たちは、自分たちの努力や心配によって未来を変えられると錯覚しがちです。しかし、イエス様は「思い煩ったからといって、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか」とおっしゃいます。心配することで、何も解決しないどころか、心身を疲弊させてしまうだけなのだと思います。ですから、明日の心配は明日に任せましょう。今日、自分に与えられた務めに集中し、今日という一日を神様と共に生きる。そうすることで、私たちを苦しめる漠然とした不安から解放され、心の平安を得ることができるのではないのでしょうか。

神様を信頼し、思い煩いを委ねて、今日という一日を大切にしていきましょう。

富永 祐子 (国際文化学科)

## —朝の礼拝から 2—

## キリスト教学校で生かされる恵み

ヨハネによる福音書 4 章 13～14 節

昨年度の 10 月に続き、この礼拝の時をご一生できる恵みに感謝いたします。わたしたちの清和学園は、来年度末、125 年の歴史をもって閉校することが決まりました。閉校することが知らされ始まった昨年度 4 月、新しい学年が始まった時、校内はいつもと変わらぬ空気に満ちていたように思います。それは、わたしたち学校で共に過ごす者たちが、1 つの思いをもって集まっていたからです。その思いとは、ここまで紡がれてきたものを最後まで大切にしよう、というものです。

清和学園の校名の由来であり、また建学の精神となっているものは、マタイによる福音書 5 章 8 節、9 節です。世界各地で人の命を蔑ろにする戦争が続いている今、この建学の精神の基、わたしたちに何ができるのかを考えると、お互いに知恵を、知識を身につけて世に出ていくこと、キリスト教学校が持つ本来の品性を最後まで保つこと、これがわたしたち、最後を担う者の務めであると一人ひとりが自覚したからこそその空気感、雰囲気でした。

わたしたちは長崎を訪ね、「平和とは本当にどうあるべきなのか。どうすることが平和を創り出すことになるのか。わたしたちは何を本当に学ばなければならないのか。今生かされている命をどのように用いる必要があるのか」と、多くの課題が与えられています。

今朝の聖書の箇所は、活水の校名の由来ともなる箇所です。わたしたちには今、学ぶ時が与えられ、永遠の命に至る水を受けるよう、集められています。過去に学び、今を精一杯生きること、未来が開かれることをわたしたちは知っています。

今日 1 日も、1 つ 1 つの出会いを大切に、しっかりと学びの時となるよう、祈りたいと思います。

三浦 真菜 (清和女子中学高等学校教頭 2004 年度本学音楽学部卒業生)